

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	平成23年7月29日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=2170500702&SCD=320&PCD=21
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 んふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから臨む犬山城やリビング目の伊木山と、四季折々の景観があり、開放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスなどと連携しながら、行事への参加や地域との交流を図っています。利用者ご本人の思いを汲み上げるように努め、ご家族の意見も取り入れながら、職員がプロとしての視点を養いつつ、カンファレンス(ケアの確認・情報交換)を通してその方らしい生活を送って頂けるような支援を目指しています。また、地域との密接化にも力をいれており、ご家族への満足度調査や家族会の開催(各年2回)、運営推進会議の開催(年6回)、見守り隊(下校児童の見守り)への随時参加を行っています。近隣スーパーへの定期的な外出やニーズに応じた個別外出も随時行っており、様々な馴染みの関係性を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GHジョイフル各務原は市の鷺沼地区南部に位置し、木曾川を挟み犬山城を望むことができる。周辺は、緑豊かな山や、桜、ツツジ、紫陽花、ひまわり、野菊等四季折々の花が咲く環境にあり、施設の利用者や地域住民にとっては日常的な生活の場として住み易い地域である。また施設内に特別養護老人ホームやデイサービス等を併設しており、支援の連携を図りながら施設全体で利用者を支えている。全職員が理念に沿った支援を心がけており、日々、ケアの確認や利用者一人ひとりを見つめ直すなど、向上心を持って仕事に携わっている。管理者を中心に職員間の信頼関係も強く、すべての情報を共有し全員で検討しながらケアに当たっている。静かな中に、利用者、職員の笑顔が満ち、本人にも家族にも安心できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホーム独自の憲章がスタッフルームに掲示しており、職員間で意識している。	施設長、管理者そして職員の連携が良く、理念に沿った地域密着型サービスを提供している。また、職員間での話し合いが多くもたれ、理念の他に独自の目標を作成し、その達成に向けて職員全員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館で開催されている自治会の花見や地元の学校行事に、利用者数名が参加している。自施設での納涼祭や秋祭りを通しても、積極的な関わりを図っている。	地域の住宅地から少し離れたところに立地しているが、積極的に地域住民との交流を図っている。利用者と職員が『見まもり隊』として小学生の通学路に立つことがあり、地域の一員として役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設の地域包括センターが主催である、地域住民向けの新年会や介護者教室に利用者数名と参加し、グループホームの生活を紹介した。ボランティアの受入れも、随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域関連の方や家族代表の方などが参加している。予め報告資料を配布・郵送し、確認して頂いた上で2ヶ月に1回開催している。会議での意見を参考にしつつ、運営に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催している。評価結果については目標達成計画をつけて報告し、メンバーにモニター役になってもらっている。また家族会で出された意見も会議で報告し、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にも市町村担当者は毎回出席して頂くことが出来ており、何かあれば随時相談できる関係を築けていけるよう努めている。	併設の特養や地域包括支援センターとともに市との連携は密に保たれている。また、グループホームからも月に1回以上、市役所を訪問しており、その都度情報の交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や会議を通して、共通理解を高めている。居室や玄関は施錠していないが、特養との連絡通用口は、状況に応じて職員間で連絡をとった上で施錠を行っており、家族にも報告している。	グループホームの玄関は開放されており、利用者が自由に中庭やデイサービス等に行き来している。身体拘束については、現在行っていない。また、身体拘束を行わないことについて勉強会で理解を深め、職員同士で確認を常に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議を通して、共通理解を高めている。打撲など早期発見に努め、原因究明と対策の検討を会議で行い、(事故の)再発予防に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や会議を通して、共通理解を高めている。制度の理解に乏しい職員も多い為、機会のアピールと積極的な参加を呼びかけていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ハウスマネージャーと相談員が同席し、意向を伺いながら説明を行っている。随時、気配を察しながら伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の満足度調査と家族会を中心として、家族の要望をすくい上げて運営の改善に繋がっている。頂いた意見は玄関の掲示板で公開している。普段の面会時にも要望などを伺い、記録している。	家族会では利用者、家族、職員で食事を共にし、スライドで利用者の日頃の様子を伝えている。また満足度調査の結果について、その項目一つひとつを検討し、利用者、家族に向けて説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議において、(ケア見直しや運営の改善を含め)1人1人の提案事項に耳を傾ける場を設けている。事前に議題として意見を仰ぎ、共通意識を持った上で臨んでいる。	施設長や管理者は、職員が意見や提案を出し易い環境づくりに努めている。月1回の会議でも中味を予め伝えておき、活発な意見が出るように工夫している。管理者は、職員が意欲を持って働けるよう、職員の思いを受け留める姿勢を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	互いへの思いやりを大切にし、(時には指導も行うが)各自がフォローにまわっている。有休希望表を掲示し、各自が平等に有休を取得できるよう、計画的に図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や研修は計画的に組み立てられ、実施(参加)している。それ以外の機会にも、参加を呼びかけており、必要に応じた勤務配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のエリア内で年に2回交換研修を行っており、それ以外でも派遣している。法人外の情報も積極的に取り入れ、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をもとにある程度本人の状態を把握した上で、各自が挨拶を行うと共に、本人の不安が少しでも和らぐように、些細なことでも声かけを意識的に行っている。様子を記録に載せ、情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各自が積極的に挨拶を行うと共に、ハウスマネージャーを中心として、随時相談や意向を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報や本人・家族の意向をもとに、計画作成担当者とハウスマネージャーが中心となって暫定ケアプランを作成し、家族に説明し同意を得た上で開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じて、相手の気持ちに寄り添うコミュニケーションを意識している。共に楽しみ・共に笑う(もちろん共に悲しむことも…)時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を運営の改善に繋げるのはもちろんのことだが、積極的に意見を述べられない家族に対しても(受身だけではなく)伺っている。言葉としてははっきりした応えでなくとも、関係性を築くカギとなることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養に昔の知人が入所してみえる方がおり、時々交流がある。年末には年賀状を作成する方がいる。(認知症の進行から)家族での外出が難しい方は、個別外出時に家族をお誘いしている。	利用者が培ってきた生活背景はアセスメントで把握しているが、日頃の会話から知ること多い。特養やデイサービス等を併設している為、受けるサービスが変わっても馴染みの関係は続き、行き来している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事席の配慮や集団行動が難しい方には職員が付き添って食事をしている。常に集団から避けるのではなく、状況に応じて職員が仲介となって交流を図る機会も意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方がみえ、グループホームの利用者と面会に訪れたり、全体の行事の際は家族とも挨拶を交わしている。法人内の他施設へ移られた方に対して、時折面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言を「つぶやき」として拾い上げて検討し、必要に応じて家族にも相談し、その方のニーズに繋げている。発言ではなくとも、表情や仕草など、本人の思いを見出せるように努めている。	職員は利用者一人ひとりに関心を寄せ、「つぶやき」で思いを知ろうと努めている。職員はそのつぶやきから思いを読み取り、記録に残し全職員で共有し、本人の希望が叶うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報と併せて、以前の生活や入居までの経緯などを伺っている。特に習慣については大切に、馴染みの生活を送って頂けるよう情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	デイリープランの充実を図り、個々に応じた(ニーズに即した)ケアプラン作りを図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ハウスマネージャー・計画作成担当者・担当職員が中心となって本人・家族・各職員と話し合い、意見を反映したケアプラン作りに努めている。また、急な体調変化に応じても都度検討している。	モニタリングは現場職員の声を拾い上げ行なっている。利用者それぞれの担当職員、管理者、ケアマネージャーで新たな計画を練り上げ、会議で全職員にはかり、出された意見を反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に載せることは当然のことながら、些細な変化や気づきも出来る限り見落とさぬよう、意識している。ケアの実践については、担当職員を中心とし、都度会議で確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化に応じて、グループホームでの対応の選択肢が限られてしまった時には、併設の特養への入所も視野に入れて全体会議で情報を発信している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として役割意識を持って頂くよう、見守り隊(下校児童の見守り)を随時行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームを利用する前からのかかりつけ医師にかかっている方が大半であり、家族が付き添っている。必要に応じて体温表を渡し、意向に応じて身体状況をまとめて渡している。	利用前からのかかりつけ医を継続している利用者がほとんどで、受診付き添いの家族を介して医師と連携を図っている。家族の付き添いが困難な場合は、協力医がかかりつけ医となりホームで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師が常に待機しており、緊急時には指示を仰いでいる。それ以外でも、介護職では判断しかねることの相談を行ったり、体調に変わりある方などの情報については、全体会議で情報を発信している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族の相談に応じながら必要な情報を提供しつつ、病院側との調整役を担っている。また、病院側への情報提供も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームとしては終末期(看取り)の対応は行わない方針であるが、併設事業所の他職種や医療機関などと連携を取りつつ、出来る限りの支援が出来るよう、本人や家族の意向を伺いながら努めている。	利用申し込みにあたり、終末期の対応は行わない方針を家族に伝え、納得いただいた上で契約を結んでいる。入居後利用者の状態が悪くなり、病院、施設、在宅への住み替えが求められる場合には、適切な場を関係者で検討し安心して移ってもらえるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や救急時のマニュアルをもとに、各自で確認するようにしている。施設で行われている勉強会にも、可能な限り参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養と合同で、避難訓練を年2回行っている。災害時の地域との連携については、特養と合同の形で検討している。	合同訓練では地域の方の参加もあり、災害時における地域との協力体制作りに取り組んでいる。夜間を想定した訓練は行なっていない。また備蓄食料については、グループホームで用意がある。	職員が一人となる夜間の想定を含め、ホーム単独での訓練を検討いただきたい。また食料以外の備蓄についても、ホーム独自に必要な物がないか、再確認を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めた会話の中でも過度な表現にならぬよう敬意をはらい、相手の気持ちになった声かけを意識している。入室前にはノックするなど、個人のプライバシーにも配慮している。	職員は、「相手の身になって考えたら・・・」「自分がこうされたら・・・言われたら・・・」を常に意識し、利用者一人ひとりの誇りを尊重したケアを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手が分かり易いような(個別に応じた)表現を意識して接している。「Aパターンだと応じられないがBパターンなら応じて下さる」など、記録や会議を通して情報共有を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人・家族の意向をもとに、個別の生活パターンを把握した上でデイリープランを作成し、馴染みのある生活づくりに努めている。また、随時会議で意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に応じて、その日の衣服を自己決定できるような声かけを意識している。行事や誕生日などの特別な日には、特に配慮している。今までの生活習慣を尊重し、外部へ理美容に行かれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや出来る範囲で、部分部分の手伝いをして頂いている。献立表に沿いながらも、意向に応じた急な献立変更など、グループホームならではの特色を活かして食を楽しんで頂けるよう、考えている。	ほとんどの利用者が、食事を準備した後片付けすることを当たり前のこととし参加している。また利用者がホームの畑で育てた野菜が食卓にあがることも多く、調理法の話などで会話が弾み、楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて、食事(特に水分)摂取量に気をつけている。なかなか摂って頂けない方には、嗜好品を中心にタイミングを見計らった提供を意識しており、体調にも記録を通じて配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた介助(声かけ、ブラッシング、確認)を行っている。介入が難しい方には、清涼感のあるうがい薬を試してみたり、家族に相談しながら進めている。意向に応じて、定期検診をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、介助を要する方には随時さり気ない誘導を意識している。個々の排泄パターンを把握し、羞恥心の配慮に努めている。	職員は利用者一人ひとりの状態を把握し、声かけによるトイレでの排泄、オムツをしないですむ暮らしを支援している。またトイレ誘導や介助の際には、本人のプライドを傷つけないさり気ない配慮がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、食物繊維の多い食材選びや、個々に応じて乳酸菌飲料をすすめている。また、適度な運動も意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否の強い方や体調の事情から毎日入る方は限られているが、入浴チェック表を用いて、未入浴の間隔があかないように意識している。2～3人使用の浴室ではあるが、羞恥心を配慮し1人で入られる方もいる。	毎日の入浴を基本とし、本人の希望や習慣を大切に支援している。入浴を拒まれる方には言葉かけや対応を職員で工夫し、安心して入浴してもらえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや季節に応じて、明るさ(照明具合や日差しの調整)や空調の確認など、都度環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を個人ファイルで保管しており、服薬期間についても書き留めて、薬がきれぬよう随時家族へ連絡している。状態に応じて、個々に応じた提供方法を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除やゴミ捨て、洗濯物干し、料理、裁縫などの家事や、外出、誕生日のお祝い、季節の行事などを通して、個々の楽しみごとを見出せるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	約2日に1回の食材買出しを中心とし、個別に応じた外出の機会も設けている。長距離の歩行が困難な方には車椅子を用いたり、短距離の歩行で済む喫茶店やドライブをメインとして行っている。	外出チェックリストを活用し、利用者の外出が偏らないよう配慮し支援している。成田山やお花見、外食など全員でのお出かけのほか、スーパーやコンビニへの買い物、図書館、喫茶店など、本人の希望を受け個別にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の小遣いを金庫で管理しており、小遣い帳を用いた上で収支の報告と入金への依頼を随時家族に行っている。外出先での支払い時は、本人の状態に応じて関わって頂けるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の意向や希望に応じて、必要な手助けを行っている。年末には、年賀状を作成する方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの作品や写真を掲示したり、季節感のある飾りつけを行っている。開放感のあるリビングと周囲の自然環境を活かせるよう、落ち着いた生活空間を意識している。	通常の台所の他に流し付きの調理台が別があり、利用者が皆で作業できる設備の工夫がある。居間や食堂には行事の写真や利用者の作品、めだかの水槽などが置かれ、生活感を取り入れ居心地良く暮らせる配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席やソファコーナー、ベランダのベンチなど、思い思いが寛げるスペースを得られるよう、意識している。生活パターンの変化に応じて、模様替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品については、本人が安心されるように馴染みの物を持ってきて頂くよう、入所時に家族に依頼しており、それぞれが個性あふれる空間となっている。	昔から使っていたタンスや棚、馴染みの小物に囲まれ、安心して過ごせる居室となっている。入居直後の方や持ちこみが少ない方には、本人、家族と相談しながら、その人らしい居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや間接照明を活かして、出来る限り本人で進めて頂くように整えている。修理が必要になった物に関しては依頼書を出して、早期修繕に努めている。月に1回、設備・備品チェックを行っている。		